

4-2 ヒアリングした結果（一覧）

市民団体、教育に関わる団体へのヒアリング

1 ヒアリングした団体と活動していること

(1) あんじょうまざりん

○プレスクール＜安城市の補助金を使っている＞

外国にルーツを持つ子どもに、小学校に行く前の手伝いをして
いる。今年で4年目。毎年12月から4月にかけてプレスクールを
開いている。全部で7回開き、定員は午前・午後でそれぞれ6名ず
つ。

○多文化子育てサロン＜安城市と協力して行っている＞

外国人親子と日本人親子の交流や、お互いを理解し合いながら、
外国人の保護者に子育てや日常生活に役立つ情報を届けてい
る。今年で3年目。1年に4回くらい開いている。

○ネットワーク事業

生活に関わる情報を発信したり、情報を「やさしい日本語」にし
たりする。

○多文化共生・まちづくり事業

町内会とブラジル人学校を繋げる等。

○その他の外国人を助ける活動

定時制の高校に行っている学生の勉強を助ける等。

(2) Anjoyともだち

○いろんな国の友達を作ろうの会

外国人市民のやりたい事を叶える場。お互いの文化を体験する。
やりたいときにやっている。

○Anjoy女子会

女性の「ちょっとした悩み事」を助ける。公民館の和室で、1か

げつに1回くらいやっている。にほんじんおやこもあわせて10人くらいさんか参加している。

○多文化キッチン

がいこくせきせんばいママにこうしをねがお願いして、がいこくりょうりまな外国籍の先輩ママに講師をお願いして、外国の料理を学ぶ。どようびかいへいじつかいげつかいひら開いている。多いとき30人くらいさんか参加している。

○多文化カフェ

もともとEnglishカフェとして、ごがくをおし教えてもらっていた。いまこうりゅうばあつまったひとがはなしたいげんごはなば交流の場として、集まった人が話したい言語で話す場になっている。

○国際交流フェスティバル＜安城市の補助金を使っている＞

いろいろなくにひとがいこくぶんかりょうりなどのたのこりゅうイベント。ことしでかいめ2回目。

(3) 特定非営利活動法人トルシーダ

○日本語初期指導教室わかば＜安城市の委託事業＞

にほんにきたばかりで、まったくにほんごがわからないがいこくじんこどもににほんごをおし「にほんごしよきしどうきょうしつ」をやっていいる。あんじょうしのきょういくいいんかいいまいけしょうがっこうにほんぎしょうがっこうにほんごしよきしどうきょうしつをやるために、きょうりやく協力している。

こどもたちは3か月の間げつあいだにほんごしよきしどうきょうしついがっこうせいかつ最低限必要なにほんごべんきょうを勉強している。

2023年11月時点では、ねんがつじてんいまいけしょうがっこうめいにほんぎしょうがっこうめい2023年11月時点では、今池小学校に13名、二本木小学校に6名のこどもたちがいる。こくせきはふいりびんぶらじるがおおすりらんか、ちゅうごくいんどねしあなど中国、インドネシア等もいる。

(4) 特定非営利活動法人多文化共生サポート Adagio

○放課後学習支援教室アーモンド

まいしゅうもくようびあんふおーれでやっている。ことしでねんめ4年目。がっこうの

授業で使う日本語を教えたり、学校の宿題等を手伝ったりしている。フィリピン、ネパール、スリランカ国籍の子どもが多い。

(5) Pay Forward

○放課後学習支援教室 Raimu-来夢-

毎週金曜日、県営古井住宅内の第2集会所でやっている。今年で8年目。学校の授業で使う日本語を教えたり、学校の宿題等を手伝ったりしている。

今年度から、今本町でも教室をやっている。最近ではフィリピン、スリランカ等のアジア国籍の子どもが多い。昔はブラジル国籍の子どもが多かった。

(6) サルビアにほんごの会

○大人向けの日本語教室

毎週土曜日にやっている。昨年度までは安城市民交流センターで開いていた。今年度からは、市民協働課と協力し、市役所のさくら庁舎でやっている。

外国人の日本語レベルは初めての人から上級者までいるが、ボランティアとマンツーマンで日本語を教えている。国籍は、ベトナム、フィリピン、スリランカ、インドネシア等。新型コロナウイルスの前はベトナムの技能実習生も多く来ていた。

2 多文化共生についての課題

■外国人市民がイベントに参加することや、外国人を助けることについての課題

- ・送り迎えを必要としている人が多い。車を持っていないと目的地まで行けない人、子どもの送り迎えができないことで参加できない人もいる。
- ・外国人市民に情報を届けることが難しい。助けが必要な人は

多くいると 思う。学校等と 協力できると よい。

- ・ イベント等に 外国人市民が 来てくれない。メリットが わかりやすかったり、知り合いの 日本人が 一緒に 行ったりしないと 参加しない。
- ・ プレスクールの 活動が 知られていない。意識の 高い 親の 子どもしか 来られていない。保育園等と 協力していくことが 必要である。
- ・ 日本語初期指導教室が 知られていない。学校によって、外国人の 子どもへの 対応が 違う。日本語初期指導教室のことを 知らない先生がいる 学校もある。全ての 学校が 日本語初期指導教室のことを 知る 必要がある。

■ 外国人の 子どもの 課題

- ・ 学校に 行っていない 外国人の 子どもがいる。どのように 助けるかが 課題である。
- ・ 日本の 学校の 仕組みに 慣れることに 苦しんでいる 外国人の 子どもが多い。

■ 進路についての 課題

- ・ 進路について 困り、相談してくる 親が多い。相談に 来るのは 中学3年生の時、相談するのが 遅い。誰に 相談したら よいか わからないと 言われる。子どもが 高校や 大学に 行けない。
- ・ 進路の 相談等で、親子の コミュニケーションが うまく いていないことが多い。

■ その他の 課題

- ・ 発達が 遅れている 子どもについて、どこに 相談すれば よいのか がわからずに 困る 親や、発達が 遅れていることを 受け入れられない 親がいる。子どもが、日本語が わからないことで 特別支援学級に入り、悩んでいる 親がいる。
- ・ 最近、外国人労働者を 受入れている 企業が、外国人をよく 助けている。外国人から 生活や 書類等の 相談が 少なくなってきた。

3 たぶんかきょうせいぶらん 多文化共生プランをつくることについて

■ 外国人市民の活躍

- 外国人市民が自立し、活動の担い手として参加できるようにしたい。
- 外国人が活躍できる場所が必要。自分の得意なことや能力を生かして、ボランティアをやりたい人もいる。例えば、いろいろな国の料理を作る講座で、外国人に講師として活躍してもらうなど。活躍することで、自信をもつことにもつながってくる。
- 多文化共生の活動をするための建物をつくりたい。外国人市民が気軽に立ち寄って、相談できる場所。

■ 子育て

- 子どもを預けながら日本語が勉強できる教室があるとよい。子どもが小さいため日本語教室に行けない親も多い。親が日本語をどれくらいできるかどうかで、子どもの進学等に差が出てくる。
- 発達の遅れについて、福祉との協力が必要である。親の母語がわかる人、母国の文化や背景を理解することが必要である。

■ 子ども

- 日本語初期指導教室に行った3か月で、日本語がわかり、学校の授業についていけるようになるわけではない。普通学級に戻った後も助けていく必要がある。
- 日本語初期指導教室を卒業した子どもの様子が見られるとよい。普通学級に戻った後の助けに繋がるし、自分たちの活動の見直しもできる。

■ 進路

- ふだんの生活で使う日本語と学校の授業で使う日本語は違うため、ふだん会話ができるからと言って、学校の授業についていけるとは限らない。学校の授業で使う日本語を教えていくこ

とが ^{ひつよう}必要である。

- ・ ^{こうこうじゅけん}高校受験について、^{はや}早めに ^し知ることが ^{ひつよう}必要である。^{しょうらい}将来の ことについて、いろいろな ^{せんたくし}選択肢を ^し知ってもらうことが ^{たいせつ}大切である。^{せんぱい}先輩 ^{がいこくじん}外国人の ^{はなし}話を ^き聞く ^{かい}会が ^{ひら}開けるとよい。
- ・ ^{にほんご}日本語が ^{わから}わからないまま ^{ていじせい}定時制の ^{こうこうなど}高校等に ^い行った場合、^{ばあい}授業に ^{じゅぎょう}ついていけず ^{とちゅう}途中で ^{がっこう}学校を ^{やめ}やめてしてしまうことがある。

■ ^{ぼご}母語、^{ぼこく}母国の ^{ぶんか}文化

- ・ ^{にほんう}日本生まれの ^{がいこくじん}外国人の ^こ子どもに、^{ぼご}母語や ^{ぼこく}母国の ^{ぶんか}文化について、^{にほんじん}日本人と ^{いっしょ}一緒に ^{まな}学べるとよい。^{ぼご}母語や ^{ぼこく}母国の ^{ぶんか}文化について ^し知ること、^{がいこくじん}外国人の ^こ子どもと ^{おや}親との ^{こみゆにけーしょん}コミュニケーションが ^{とりや}とりやすくなる。

4 ^{たぶんかきょうせい}多文化共生に ^{とく}取り組むために

■ ^{がいこくじん}外国人の ^こ子どもを、^{たす}ずっと ^{たす}助ける

- ・ ^{しやくしょ}市役所、^{ほいくえん}保育園、^{がっこう}学校、^{ぶれすくーる}プレスクール、^{にほんごしょきしどうきょうしつ}日本語初期指導教室、^{しょうちゅうがっこう}小中学校、^{ぼらんていあ}ボランティアの ^{にほんごきょうしつなど}日本語教室等が ^{きょうりやく}協力し、^{がいこくじん}外国人の ^こ子どもを ^{たす}ずっと ^{たす}助けていく ^{ひつよう}必要がある。
- ・ ^{がっこう}学校と ^{ふくし}福祉の ^{きょうりやく}協力が ^{たり}足りない。 ^{すくーる}スクール ^{そーしゃる}ソーシャル ^{わーかー}ワーカーと ^{きょうりやく}協力して ^{がいこくじん}外国人の ^こ子どもを ^{たす}助けているところもある。

■ ^{しみんだんたい}市民団体が ^{かつどう}ずっと ^{たす}活動できるようにする

- ・ ^{がいこくじん}外国人の ^こ子どもは、^{しやくしょ}市役所が ^{たす}助けるべきだが、^{いま}今は ^{ぼらんていあ}ボランティアが ^{たす}助けている。^{しやくしょ}市役所が ^{たす}助けたり、^{ぼらんていあ}ボランティア団体を ^{てつだ}手伝ったりしてほしい。
- ・ ^し市が ^{おな}同じ ^{だんたい}団体と ^{かつどう}活動を ^{つづ}続けることが ^{ひつよう}必要である。^{がいこくじん}外国人の ^こ子どもにとって、^{おな}同じ ^{ひと}人に ^{たす}助けてもらう ^{ほう}方がよい。
- ・ ^{しみんだんたい}市民団体としては、^{かつどう}ずっと ^{たす}活動していくため ^{じぎょう}事業に ^{たいが}したいが、^{かいしゃ}会社に ^{する}するところまでは ^{まだ}できていない。

■ ^{ちいき}地域や、^{ほか}他の ^{だんたい}団体との ^{つな}繋がり

- ・ ^{きょうかい}教会や ^{もすく}モスクは、いろいろな ^{くに}国や ^{ちいき}地域の ^{ひと}人が ^{あつ}集まっている。

- ・市内にある ぶらじるじんがっこうなど ブラジル人学校等と きょうりよく 協力していくとよい。
- ・企業と きぎょう もっと きょうりよく 協力したい。
- ・市民団体同士の しみんだんたいどうし 繋がりを つな 持ちたい。一つの ひと 相談窓口から、それぞれの そんだんまどぐち 団体に だんたい 繋がられるような つな 制度が せいど できるとよい。
- ・市内外の しないがい 関係団体と かんけいだんたい 協力したい。

■ あら 新たな にな 担い手 て を み 見つける

- ・大学生の だいがくせい ボランティアを ぼらんていあ 増やすには、しゅうしょくかつどうなど 就職活動等と かんけい 関係するよ
うに し できるような しく 仕組みがあるといよい。
- ・参加する さんか ボランティアは、うえぶさいと ウェブサイトで さが 探しているの
で、うえぶさいと ウェブサイトへ じょうほう 情報を の 載せるとよい。なに 何を や やっているか しゃしんなど 写真等
を おほく 多く の 載せて かつどうないよう 活動内容が わか った方が ほう 参加したいと おも 思う。
- ・前まえから きょうみ 興味は あ ったが、きぎょうなど 企業等を とお 通した ぼらんていあ ボランティア募集に よ り、さんか 参加しやすくなった。

保育園へのヒアリング

1 ヒアリングした園

(1) 安城保育園

外国人の子どもは1割くらいで、フィリピン、ベトナム国籍の子どもが多い。ベトナムが増えている。

園の先生と外国人の保護者のコミュニケーションは、ez:commuという機械を使っているが、Google翻訳等も使っている。

(2) みその保育園

外国人の子どもは2割くらい。多い時は3分の1くらいが外国人の子どもだったが、新型コロナウイルスで外国人の子ども数が減った。ブラジル国籍の子どもが多く、ペルー、ベトナム等もいる。

通訳がいつも1人いて、翻訳や通訳をしている。

2 多文化共生についての課題

- ・園に入るためのオンライン手続きや、子どもが休む時に使うアプリが日本語だけのため、うまく使えていない。
- ・園から保護者へのお知らせはたくさんあり、全て翻訳することは難しい。文章を簡単に機械で翻訳できるような仕組みがあるとよい。
- ・発達の遅れについて、言葉や文化の壁もあり、言語の問題か発達の問題か見分けられない場合がある。また、療育施設に繋げようとしても、療育施設に通訳者がいないため、助けられないこともある。

3 多文化共生プランをつくることについて

- ・外国人の親からの相談はことばの壁があり、園で相談を受けられる内容は多くない。子育ての相談に乗ってくれる場所があるとよい。
- ・ことばの問題で細かいニュアンスを伝えられない時があるため、電話通訳やビデオ通訳が使えるとよい。

4 多文化共生に取り組むために

- ・今は、市民団体と協力はしていない。
- ・園も忙しいため、仕事が増えることはできないが、イベントの情報伝えることはできる。
- ・多文化子育てサロンのチラシは園に置いている。

町内会へのヒアリング

1 ヒアリングした団体

(1) 土器田町内会

全体の半分以上が外国人家族である。新しく住む人はほぼ全て外国人のため、外国人の割合が高くなっている。国籍は、ベトナム、ブラジル、フィリピンが多い。

外国人家族は若い夫婦で、小さい子どもがいることが多い。高齢の外国人もいるが、介護等はまだまだ必要ない。

町内会のイベントを知らせるときは、外国人住民が翻訳・通訳をしてくれている。町内会の役員としては、班長等をやってもらうことがある。外国人をまとめてくれるような中心人物も育てている。

世話役として町内会の役員が外国人住民に積極的に声をかけ、日常生活の困りごとの相談を受ける等、外国人住民と仲良くなっている。

(2) 古井住宅町内会

外国人家族は120世帯くらいで、全体の約2割。国籍は、ブラジル、ペルー、ベトナムが多く、ベトナムが増えている。

町内会のイベントを知らせるときは、外国人住民が翻訳・通訳をしてくれている。

(3) 依佐美・美園住宅町内会

外国人家族は200世帯くらい。新しく住む人の3分の2くらいが外国人家族。国籍は、ブラジルが多く、スリランカ、フィリピン、ペルー、中国、ベトナム等がいる。ベトナムとスリランカが増えている。

町内会のイベントを知らせるときは、外国人住民が翻訳・通訳をしてくれている。スマートフォンのアプリを使って話すこともある。

2 多文化共生についての課題

- ・ごみ出しのことは課題である。個別に注意したり、カメラを設置したりしてよくしている。ただし、分別のルールを知らないだけの場合もあり、説明すると直してくれることもある。
- ・子どもたちが敷地内の公園で夜遅くまで遊ぶことや、生活の仕方の違い等による深夜の騒音については、住民同士のトラブルになることがある。何も対応しないと、大きなトラブルになるかもしれない。
- ・新型コロナウイルスのときから、地域の祭り等ができていない。昔は地域の祭り等で外国人住民と交流していた。
- ・書類の書き方、病院のことで相談がある。

3 多文化共生プランをつくることについて

- ・外国人住民と日本人住民の交流をしたい。ブラジルのコーヒーを飲む会等、食を通じた交流を考えている。
- ・回覧板で回す内容は日本語なので、外国人は中身を見ていないと思うが、内容が分からず困っているのではないか。

4 多文化共生に取り組むために

- ・外国人市民を助ける活動や交流で、集会所を貸すことは問題ない。市民団体等に使ってもらえればと思う。
- ・積極的な町内会長が、安城市内の外国人住民の多い町内会同士の情報を交換する会を開いている。

かいしゃ への ひありんぐ 会社への ヒアリング

1 ひありんぐした かいしゃ ヒアリングした 会社

(1) がいこくじんぎじゆつしゃ やと かいしゃ 外国人技術者を 雇っている 会社

がいこくじん にん ざいりゆうしかく ぎじゆつ じんぶんちしき こくさいぎやうむ おお
外国人は 20人くらい。在留資格は、技術・人文知識・国際業務が 多
く、せいしゃいん やと こくせき べとなむ おお えいじゆうけん と
正社員として 雇っている。国籍は ベトナムが 多く、永住権を取
った 人もいる。さいきん みゃんまー からの うけいれもある。子どもが
いるのは にんちゆう にん ともばたら ひと おお
20人中10人くらい。共働きの 人が多い。

がいこくじんじゆうぎやういん にほんごきやうしつ しゆう かい しごと じかんちゆう ひら
外国人従業員のために、日本語教室を 週1回、仕事の 時間中に 開
いている。もとじゆうぎやういん にほんごのうりよくしけん も ひと おし
元従業員で、日本語能力試験NIを 持っている人に 教え
てもらっている。

ごみだしについて りかい 理解していないため、ごみの だし方の べとなむ
ごばん つく りかい 理解するまで かいしゃ に ごみを も 持ってきてもらった
りしている。

(2) がいこくじんぎのうじしゆうせい やと かいしゃ 外国人技能実習生を 雇っている 会社

がいこくじん ぎのうじしゆうせい いんどねしあじん おお
外国人は、技能実習生の インドネシア人が 多い。

にほんごのうりよくしけん ぎのうけんてい ごうかく ばあい ほうしょうきん しはら
日本語能力試験や 技能検定に 合格した場合、報奨金を 支払って
いる。にほんごきやうしつ しょうかい
日本語教室を 紹介している。

ぎのうじしゆうせい りやう す せいかつ おりえんてーしょんは
技能実習生は 寮に 住んでいる。生活の オリエンテーションは
かんりだんたい が やっている。かる びやうき かいしゃ びやういん つ
監理団体が やっている。軽い 病気なら、会社が 病院に 連れていく。

2 たぶんかきやうせい かだい 多文化共生についての 課題

- ぎのうじしゆうせい くるま も いどう たいへん にほんご
技能実習生は 車を 持っていないので、移動が 大変である。日本語
きやうしつ い たいへん
教室に 行くのも 大変である。
- こ がっこう しょういなど そうだん つか にほんご
子どもの 学校の 書類等は よく相談が くる。使われている 日本語
が 難しい。「やさしい日本語」なら 書けるところも あると思う。
むずか
- ちやうないかい はい ひと ちやうないかい そんざい し
町内会に 入っている 人もいるが、町内会の 存在を 知らなかった
り、はい かつ し 知らなかったりする人の 方が 多い。
ひと ほう おお

3 多文化共生プランをつくることについて

- ・子連れて参加できる日本語教室があるとよい。共働きで働いている人が多いので、いつ教室を開くかが大切である。
- ・Facebook等SNSのベトナム人コミュニティで助け合いをしている。そういうコミュニティで情報が発信できると伝わるのではないか。
- ・あんくるバスは、車が運転できない技能実習生もよく使っている。外国人市民にもPRしたらよいのではないか。
- ・宗教によって、食べられないものやお祈り等がある。ハラルの店等について知識がないのであまり教えてあげられない。そういうお店があるかどうかで住む場所等も決めているのではないか。お店等わかりやすいものがあるとよい。

4 多文化共生に取り組むために

- ・会社で行っている日本語教室に従業員以外の人が来ることは問題ない。
- ・市からのお知らせを技能実習生に伝えたり、何かの事業に参加させたりすることはできる。いつでも連絡してほしい。ただし、本人たちが参加するには行きやすいことが大切である。
- ・寄附金控除等があれば、多文化共生の活動のために寄附をする会社はあるのではないか。

外国人市民へのヒアリング

1 ヒアリングした人

多文化子育てサロンと日本語教室に来た人

2 生活について

- ・ コミュニケーションが一番困っている。スマートフォンの翻訳アプリ、地図アプリ、電車やバス等の情報等を使っている。
- ・ 最初は、移動手段が自転車しかなくて困った。今は車を買った。
- ・ 車での移動がほとんどで、バスでの移動はあまりしない。自分で車を運転できないため、子どもの送り迎え等に困っている。
- ・ 働きたいと思っているが、ニカブ（ムスリム女性が着ける衣服）を着けて働けるところが少ない。
- ・ 安城市はモスクがあり、友達もいるため気に入っている。子どもも安城市にいて欲しい。
- ・ モスクが近いから、他の市から安城市に引っ越してきた。

<困ったとき>

- ・ 市役所に行って相談している。
- ・ 長く日本に住んでいる家族に相談している。
- ・ まずはインターネットで調べて、わからないと市役所や学校に相談している。

3 子育てについて

- ・ 日本の保育園は持ち物がたくさんあって大変である。
- ・ 自分の親は日本に住んでいないため、子育てを助けてもらうことができないから大変である。
- ・ 子どもが小学校でいじめを受けたが、だれにも相談できなかった。
- ・ ムスリムの対応について、中学校ではヒジャブを着けることがで

きて、多目的室で お祈りをさせてもらっている。お祈りの 場所がない 中学校もある。

- ・ 子どもの 勉強を 自分で 教えてあげられないので 心配している。子どもが 高校に 行けるか 不安である。
- ・ 入試の ことが わからない。 通知表が 理解できない。 中学3年生に なるまでの 説明では 遅い。
- ・ 進学について 話す 学校の 三者面談は、子どもが 通訳している。わからないことは、子どもが 友達に 聞いている。
- ・ 中学校の 懇談会で ポルトガル語、タガログ語の 通訳は いるが、英語の 通訳が いないため、コミュニケーションが 取れない。
- ・ 多文化子育てサロンは、日本語初期指導教室の お便りで 知った。子どもが 行きたいと いうので来た。
- ・ 多文化子育てサロンは、プレスクールで 教えてもらった。
- ・ 高校への進学について 相談したくて 多文化子育てサロンに 参加した。

4 日本語の 勉強について

- ・ 日本語は 自分で 勉強している。日本に 来る前に 6か月 ベトナムで 勉強した。
- ・ 木曜日の 夕方の 日本語教室に 参加している。昼間は 働いているので、夕方か 週末が 参加しやすい。
- ・ 日本語教室に 行っていたが、引っ越して 遠くなったため、行けなくなった。

5 多文化共生（コミュニティ、交流）について

- ・ 最初は 日本人の 知り合いが いなかった。ことばの壁も あるため 難しかった。 県営住宅に 住み、同じような 年の 親子を 公園で 見つけ、知り合いを 増やした。 サッカーや 日本語教室も 知り合いができる きっかけになった。

- ・日本人の友達は、多文化子育てサロンのボランティアの人くらい。
- ・外国籍の友達が多く、モスクで知り合うことが多い。
- ・SNSで国籍が同じ人と繋がっている。
- ・国籍が同じ人は、知り合いがやっているレストランで会う。